

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU!

無料

第72号

毎月発行

発行 2018年(平成30年)5月16日 水曜日

2018年(平成30年)5月16日 水曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、64歳、経営コンサルタント、趣味は縄文研究、今年1月に『東北先史時代学』を提唱、東北から日本を変えることを標榜する。また放置されている縄文遺跡保存活動として郷里の涌谷町の『長根貝塚保存活動』開始。



歴史を遡ることは過去を研究することではない 東北の歴史の発掘は東北復活の第一歩 連載企画⑤ 【東北先史時代学】

古代・縄文・旧石器時代の記事は趣味ではない

唐突な書き出しではあるが、これまでの当新聞の主張を多少修正する必要があると感じ始めている。

最近の当新聞の記事編成においては、古代や縄文、さらには旧石器時代記事の比重が増している。

そうした記事と東北復興とはどこに接点があるのかといふかしく感じられている読者の方もおられるにちがいない。

そうした気配を勝手に察して、多少遠慮がちに古代、縄文、旧石器時代についての記事を書いてきたつもりである。

しかし、こうした無用な遠慮はかえって逆効果になり、誤解を深める結果になるのではないかと思いつめてきた。

そこで今回号のこの記事で、最近の記事編成がけつして、筆者の古代、縄文、旧石器時代趣味から出たも

のではないことをはっきりさせ、そして、なぜ古代、縄文、旧石器時代の記事比率が増していったのかの理由をはっきり示そうと思う。最初から明確にしておけばいままさかこうした言い訳は不要だったが、ご容赦願いたい。新聞発行回数が増すに連れ、だんだん方向性が明確になってきた部分もあることは否めない。

東北復興のベクトルはどこに向かうか

当新聞も当初は、大震災からの復旧と復興を使い分け、復興こそ目指すべき目標としてきた。

しかし、外から判別可能なインフラ復旧は別として、東北の復興とはなんだろうかと次第に疑問を抱くようになってきた。

あの大震災以前にも東北は非常に長い時間をかけてずっと衰退してきていた。経済だけの問題ではなく、明治以降は一貫して中央政府による被支配的な空気が満ちていた。



今から1300年以上前と変わらぬ宮城県涌谷町の無夷山篋峯寺観音堂からの眺望



創建1300年以上前の宮城県涌谷町の無夷山篋峯寺観音堂

東北の文化といっても、いまや何が東北文化なのか

判然としないまでに長い時間をかけて破壊されてきた。こうした環境下で、では

いったい東北復興とはどこを目指そうというのか、経済的な復興だけを図ろう

というのだろうか。まさか東京などの大都市

圏型の東北を目指そうというのか。東北の自然を今以上に破

壊し、工場群を乱立させ、人を集め、住宅地を増やせば復興なのか。

それともつと根源的な東北復興を目指すのか。

そもその疑問として、いわゆる復興ビジョンというものは異なるゴール、これぞ東北が復興したと納得できる姿とはいったい何だろうか。

そうした疑問を抱えつつ、当新聞は答えを歴史に求め、歴史を大きく遡りつつ、答えを探し続けてきた。

歴史研究は過去を調べることだけではない

歴史を研究することは過去を調べるだけではない。歴史を調べることは過去を調べるだけではない。歴史を調べることは過去を調べるだけではない。

しかし、よくよく考えてみれば、過去を調べるだけで、そこに立ち止まり、そこから何も発展させないというものはあり得ない。もし何も発展させない歴史研究があるならば、それに大した意味はない。研究のための研究にすぎない。

過去を遡り、過去を研究することには、はじめから意識していないとしても、最初から何らかの無意識的な意図が潜んでいるもので

縄文時代にまで遡ったときの戸惑い

当新聞は、あの大震災から大分経った、新聞創刊六

年目になった時点で、『東北先史時代学』を提唱した。遅かったと言われれば甘んじてその評価を受け入れようと思う。気づくのが遅かったことも認めよう。また、歴史を遡り、縄文

ある。歴史探求作業に取りかかるときには漠然とした動機

かもしれないが、時間とともに、探求の進行とともに、あとでその意図がおのずと判明するのは確実である。

そうしたことを求めて歴史の探求をするのである。

時代にも遡っていった理由が、『東北先史時代学』を提唱した時点では明確にはなっていないかった。

それ以前にも縄文遺跡を取材し、記事にもしていたが、東北復興と縄文研究の明確な関係を意識してそうしたわけではなかった。無意識のまま、そこに自らを導いていったといえる。

しかし、いまならばはっきりと言える。少し前には、縄文の過去まで行き、とんでもない地点まで来てしまったと思っ

た。そこから東北の復興を考えようということとなかなか結びつきそうもない戸惑ったことも確かであった。

大変なところに自らを引
つ張ってきたと、また、か
なりの変わった人と思われ
るだろうなとも思った。

なぜ縄文だったのか

結論からいえば、東北の
再起を図れる起点探し、つ
まり東北の黄金時代を探し
ていたら、縄文にたどり着
いたということである。

東北復興というよりも東
北復興を図るために、最も
ふさわしい時代探し、疑問
の余地がないと思われる時
点探しの結果にたどり着い
た時代であった。

それ以前は、被侵略の歴
史であり、文化の破壊であ
り、俘囚などの強制移住に
よる東北弱体化の時代だっ
た。それは時代によって形
を変え、長期に亘って継続
したのだ。

東北の黄金時代といえる
時代が残っていたのは、弥
生時代前までであり、その
後次第に黄金時代の栄光は
少しずつ消えていった。



東北の被支配開始の象徴である坂上田村麻呂の千年供養碑

そしてアテルイの時代に、
完全にかつての栄光の輝き
は消えた。
縄文にこだわり続ける理
由はそういうことである。

【東北先史時代学】 の目指す時間軸とは

もちろん、【東北先史時
代学】の目指すところは、
東北復興である。
ただ、東北復興の時間軸
をどう据えるかという基本



推定樹齢 900 年の杉 (篁峯寺)

命題がある。それを素通り
して詳細論議に入るのは、
ただ混乱を引き起こすだけ
である。

今後の東北復興の何年先
を見るかをまず議論すべき
だろう。

筆者は直観的に、東北復
興の時間軸は十年や二十年
ではないとまず思った。こ
れには多くの読者も共感し
てくれることだろう。
大震災を被る以前にも、

とても長い時間をかけて、
徐々に衰退してきた東北が、
こんな短時間で復興できる
と考えるのは非現実的だ。
そうした短時間の時間は、
大震災からのインフラ復旧
の時間に相当し、真の東北
復興、あるいは復興を実現
するには短すぎる。
では百年から数百年か。
それでも短い。部分的に再
興できるかもしれないが、
まだ完全ではないと思う。
文化という領域に立ち入
った議論では、そうした時
間も短時間と位置づけられ
るだろう。



推定樹齢 900 年の杉 (篁峯寺)

また、発想がせつちかちす
ぎて、目先の動きに振り回
されている最近の日本人に
はほとんど理解されないか
もしれない。

三年先も読めない時代に、
千年先が読めるわけがない
と反論されそうである。

とはいえ、未来軸を千年
先に置くならば、過去も千
年以上遡ればバランスする
のではないか。

千年の具体的イメージ

掲載した写真を手助けと
して、千年という時間をイ
メージして欲しい。

まずは、私の出身地、宮
城県涌谷町の篁峯寺からの
眺望を見ていただきたい。
この景色は、今から
千三百年以上前と変わらぬ
眺望である。

次は、篁峯寺という神仏
習合の古い寺院である。こ
の寺も少なくとも千三百年
以上前に創建されている。
東北征服に貢献したとい

う坂上田村麻呂の千年供養
碑がある。東北征服は西暦
八百年頃であるから、それ
から千年後の千八百年に建
立された碑である。

千年には少し足りないが、
篁峯寺境内に立つ推定樹齢
九百年の杉の木もある。

最後は、千三百年前の日
本で最初の産金を祀る黄金
宮神社。
千年の過去の具体的なイ
メージとはそうしたもので
ある。

では、これから先の千年
とはどういうイメージか。
現在までの千年の間の変
化を、この先の千年に適用
するよりももっと激しい変
化が起きているのは確実だ。

東北復興から東北再 興へシフト

筆者は東北復興に千年を
要すると言っているわけで
はないし、もし東北復興に
舵を切ればもっと早く復興
が実現できるかもしれない。

いうことであろう。忘れて
ならないのはこれである。
当新聞は、けつしてその
ことを忘れることはない。
むしろそのことを目的に創
刊して、いまようやく創刊
の課題の本丸に突入しよう
としているのである。

東北文化復興の糸口

最近の考古学では、新た
な発掘による発見と、他の
科学分野とのコラボにより、
目を見張るような革新的な
発表が相次いでいる。

その結果、つい先ごろま
で定説とされていた考え方
を次々にくつがえしている。
そして、以前には闇の中に
あった先史時代の日本や日
本人の姿を明るみに出して



日本初の産金を祀る黄金宮神社

来ている。

縄文人のDNA分析では、
東アジアのどの民族とも異
なることも明らかになって
きている。

また、完全な先史時代史
はできていないが、いずれ
その全容が明らかになる。

このように時代は日本の
先史時代の再発掘に向かっ
ている。歴史が変わるとい
うことは、未来に対する考
え方も大きく変えるだろう。
それは東北も例外ではな
く、東北の先史時代が変わ
れば、未来も変わり、新た
な東北発見のなかに、千年
軸の東北復興の光は幾筋も
見えてくると確信している。

【日本酒豆知識】・・・米の磨き割合・・・『精米歩合』 分かっているようでよく分かっていない米の磨きのこと

精米歩合とは何かを一言で説明するなら「精米後の白米の、元の玄米に対する重量の割合」。また、精米歩合とは製造に使う米の芯の部分で、精白度とは製造に使用しない削りカス(ぬか)の部分という表現を使い、精米歩合+精白度=100%になります。米の中心はデンプンが多く含まれているのに対し、外側へ行けば行くほど脂質やたんぱく質が多く含まれています。以下は、主な精米歩合のランク例です。

精米歩合 70% (精白度 30%) このあたりまで磨いていくと程よくスツキリとした味わいになり、軽快な飲み口になってきます。これ以上磨いたものは特定名称酒としてのランク付けも意識した酒造りとなってきます。

精米歩合 60% (精白度 40%) かなり磨いた米。果物のような華やかな香りが目立ってくるのもこのあたりから。特定名称酒では純米吟醸酒、吟醸酒などがこの歩合まで磨きこんでいます。

精米歩合 50% (精白度 50%) 玄米の状態から半分しか製造に使用しないというとても贅沢なお酒。これ以上磨いても風味にさほど大差はなく、製造が難しくなるだけなので、他社との差別化を狙う蔵元以外はだいたい50%以上の米で酒造りしています。特定名称酒では純米大吟醸酒、大吟醸酒などがこの歩合まで磨きこんでいます。

最近では、精米歩合10%未満の酒も出て来ています。

磨いていない米ほど しっかりとした・深い味わい、米の香り、重い、鈍重、くどい。一方、磨いた米ほど すっきり、華やかな香り、軽い、薄いといった単語が目立ってきます。

第45回

水産業再興のための料理レシピ紹介 《アサリとトマトマリネ》

冷えた白ワインにも、冷えた辛口の日本酒にも合いそうですね。酒好きにはたまらないレシピです。

(すなこし)



郷土料理愛好家
松本由美子氏

【材料】 (2人分) アサリ(殻付き)200g、赤ワインビネガー 大2、オリーブ油 大4、ニンニク(すりおろし)、塩 小さ 1/2、チリペッパー 少々、カットトマト(水煮缶)60g
白ワイン カップ 1/3、カマンベールチーズ 1/2

【作り方】

- ①アサリは砂出しをし、殻をこすり合わせて洗う
- ②ボウルに上記赤字部分の調味料を入れて泡立て器などで混ぜ、トマトを加える
- ③鍋にアサリとワインを入れ、蓋をして中火で蒸し煮する。
- ④アサリの口が開いたら火を止め、熱いうちに汁ごと調味料に入れさっと混ぜる。室温に20～30分置く。
- ⑤チーズは一口大に切り、④に入れてひと混ぜする。器に盛り付け、薬味(青いもの)など添える。



写真でお伝えする 東北の風景 (サクラと鹿)

写真撮影: 尾崎匠



「ファンクラブ」活用 ① 福島県編

地域にもあるファン クラブ

どこかに旅行することが決まった時、旅行先の風光明媚なスポット、美味しい料理が食べられるお店、地域の名産品といった情報について、ガイドブックやインターネット等を使って調べてみることは多いと思われる。

そうした情報に加えてぜひ調べてみてほしいのが、「ファンクラブ」についての情報である。ここ東北にも、各地域に様々なファンクラブが存在している。それらのファンクラブは概ね、その地域に関心がありたりその地域がお気に入りだったりする人なら誰でも入会でき、入会金や年会費は無料である場合が多く、かつ会員向けに様々な「特典」が用意されている。「特典」の代表的なもの

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagna5/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo>

福島県が運営する「ふくしまファンクラブ」は、福島県がふるさとの人や福島県に愛着を持っている人など誰でも入会できるファンクラブである。入会費、年会費は無料で、①情報満載のファンクラブ会報が年4回届く、②旬な情報をメールマガジンで配信、③県内外130の施設・店舗で会員証を提示して割引やサービスを受けられる、④県外開催の福島関連イベント情報が届く、などの会員特典がある。

観光」にも力を入れているが、「会津ファン集い」でもそうした姿勢を反映して、蔵元の見学や日本酒の仕込みの体験、会津木綿の工場見学、ダムの見学など様々なイベントが企画される。仕込んだ日本酒は完成後、専用のラベルが貼られて各会員の元に送られてくるなど、手が込んでいます。会津の郷土料理や地酒を楽しみながらの交流会も開催され、会津が好きな者同士大いに盛り上がる。

「奥会津ファンクラブ」は、郡山市が運営している。郡山市外に住む人を対象に郡山をPRしてもらうことを目的としたファンクラブである。入会費、年会費無料。会員特典は、①郡山市内を中心とする約80の店舗や施設で割引などの優待サービスが受けられる、②ファンクラブ会報にて、観光、食、イベントなどの情報が届く、③郡山の観光情報メールマガジンが配信される、④東京都内を始めとした県外の物産展の情報が届く、である。

「ふくしまファンクラブ」は、福島県が運営する。県産農林水産物の良さを広くPRするためのファンクラブが「うつくしま農林水産ファンクラブ」である。県内に居住するか勤務している人、事業所が対象。入会金、年会費無料。①知事の署名が入った「うつくしま農林水産ファンクラブ」会員の「会員証」を発行、②事業所ファンクラブ会員には地産地消推進の取組みを多くの方々に周知・広報できるようにPR資料を提供、会員活動の円滑な推進や相互の連携を支援するため情報交換の場を提供、④「うつくしま農林水産ファンクラブ通信」をはじめ地域のイベントやお知らせなどの情報を提供、⑤ファンクラブ会員の活動を会員本人の了解

「会津ファンクラブ」は、会津若松から西の山あいには、奥会津と呼ばれる四季折々の美しい自然を満喫できる地域がある。この奥会津を流れる只見川は全国屈指の水力発電の川として知られるが、只見川電源流域振興協議会が運営する「奥会津ファンクラブ」は、「奥会津を応援したい！」という人であれば誰でも入会できるファンクラブである。入会費、年会費は無料で、①年1回奥会津の四季折々の風景写真が載った「奥会津歳時記カレンダー」が届く、②奥会津の旬な情報が載ったメールマガジンが月1〜2回届く、という会員特典がある。メルマガジンは、有料とはなるが冊子での送付も可

「喜多方グリーン・ツーリズムファンクラブ」は、喜多方市が好きな人なら誰でも参加できるファンクラブで、やはり入会費、年会費は無料、入会特典として古代文字名前入りオリジナル会員証(缶バッジ製)が届く。会員特典として、①情報満載のメールマガジンが定期的に届くほか、②東北最大規模の三ノ倉高原のひまわり畑のひまわり1本のオーナーになれる、という珍しい特典がある。

「天栄村サポーター会員」は、天栄村観光協会が運営する「天栄村を支える応援団」の位置付けである。毎年先着500名、年会費3,000円で、特典として4,000円相当の天栄村特産品が送られてくる他、宿泊施設料金が10%割引になるなどの特典付き会員証が進呈される。

「福島フードファンクラブ「チームふくしまプライド」」
<https://team-fukushima-pride.com/>
「チームふくしまプライド」は、復興庁が支援し

「うつくしま農林水産ファンクラブ」
<http://www.pref.fukushima.jp/an-nyu/nourin-chisanichisyounform.htm>
福島県が運営する、県産農林水産物の良さを広くPRするためのファンクラブが「うつくしま農林水産ファンクラブ」である。県内に居住するか勤務している人、事業所が対象。入会金、年会費無料。①知事の署名が入った「うつくしま農林水産ファンクラブ」会員の「会員証」を発行、②事業所ファンクラブ会員には地産地消推進の取組みを多くの方々に周知・広報できるようにPR資料を提供、会員活動の円滑な推進や相互の連携を支援するため情報交換の場を提供、④「うつくしま農林水産ファンクラブ通信」をはじめ地域のイベントやお知らせなどの情報を提供、⑤ファンクラブ会員の活動を会員本人の了解

「福島県観光物産館ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031c/new-bussankan.html>
「福島県観光物産館ファンクラブ」は、福島県観光物産館を運営する(公財)福島県観光物産交流協会によるファンクラブである。入会費、年会費無料。入会特典として、県産ジュース「桃の恵み」1本プレゼントされる他、①ファンクラブポイントカードによる割引(福島県観光物産館での買い物の際、1,000円毎に1ポイント押印、20ポイントで500円割引、発行日より1年間有効)、②イベントなど福島県観光物産館情報メール発信、③会員向けに開催する「ファンクラブ交流会」に参加でき、といった会員特典がある。

「福島空港ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031b/fisfanclub-top.html>
「福島空港ファンクラブ」は、福島県が運営する。「福島空港を応援したい！」という人のためのファンクラブである。住んでいる地域に関わらず誰でも入会できる。入会金、年会費無料。①福島県内外の協賛店で特典サービスが受けられる、②メールマガジンで福島空港や就航先などについての情報が届く、という会員特典がある。

「喜多方グリーン・ツーリズムファンクラブ」は、喜多方市が好きな人なら誰でも参加できるファンクラブで、やはり入会費、年会費は無料、入会特典として古代文字名前入りオリジナル会員証(缶バッジ製)が届く。会員特典として、①情報満載のメールマガジンが定期的に届くほか、②東北最大規模の三ノ倉高原のひまわり畑のひまわり1本のオーナーになれる、という珍しい特典がある。

「天栄村サポーター会員」は、天栄村観光協会が運営する「天栄村を支える応援団」の位置付けである。毎年先着500名、年会費3,000円で、特典として4,000円相当の天栄村特産品が送られてくる他、宿泊施設料金が10%割引になるなどの特典付き会員証が進呈される。

「福島フードファンクラブ「チームふくしまプライド」」
<https://team-fukushima-pride.com/>
「チームふくしまプライド」は、復興庁が支援し

「うつくしま農林水産ファンクラブ」
<http://www.pref.fukushima.jp/an-nyu/nourin-chisanichisyounform.htm>
福島県が運営する、県産農林水産物の良さを広くPRするためのファンクラブが「うつくしま農林水産ファンクラブ」である。県内に居住するか勤務している人、事業所が対象。入会金、年会費無料。①知事の署名が入った「うつくしま農林水産ファンクラブ」会員の「会員証」を発行、②事業所ファンクラブ会員には地産地消推進の取組みを多くの方々に周知・広報できるようにPR資料を提供、会員活動の円滑な推進や相互の連携を支援するため情報交換の場を提供、④「うつくしま農林水産ファンクラブ通信」をはじめ地域のイベントやお知らせなどの情報を提供、⑤ファンクラブ会員の活動を会員本人の了解

「福島県観光物産館ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031c/new-bussankan.html>
「福島県観光物産館ファンクラブ」は、福島県観光物産館を運営する(公財)福島県観光物産交流協会によるファンクラブである。入会費、年会費無料。入会特典として、県産ジュース「桃の恵み」1本プレゼントされる他、①ファンクラブポイントカードによる割引(福島県観光物産館での買い物の際、1,000円毎に1ポイント押印、20ポイントで500円割引、発行日より1年間有効)、②イベントなど福島県観光物産館情報メール発信、③会員向けに開催する「ファンクラブ交流会」に参加でき、といった会員特典がある。

「福島空港ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031b/fisfanclub-top.html>
「福島空港ファンクラブ」は、福島県が運営する。「福島空港を応援したい！」という人のためのファンクラブである。住んでいる地域に関わらず誰でも入会できる。入会金、年会費無料。①福島県内外の協賛店で特典サービスが受けられる、②メールマガジンで福島空港や就航先などについての情報が届く、という会員特典がある。

「福島県観光物産館ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031c/new-bussankan.html>
「福島県観光物産館ファンクラブ」は、福島県観光物産館を運営する(公財)福島県観光物産交流協会によるファンクラブである。入会費、年会費無料。入会特典として、県産ジュース「桃の恵み」1本プレゼントされる他、①ファンクラブポイントカードによる割引(福島県観光物産館での買い物の際、1,000円毎に1ポイント押印、20ポイントで500円割引、発行日より1年間有効)、②イベントなど福島県観光物産館情報メール発信、③会員向けに開催する「ファンクラブ交流会」に参加でき、といった会員特典がある。

「福島空港ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031b/fisfanclub-top.html>
「福島空港ファンクラブ」は、福島県が運営する。「福島空港を応援したい！」という人のためのファンクラブである。住んでいる地域に関わらず誰でも入会できる。入会金、年会費無料。①福島県内外の協賛店で特典サービスが受けられる、②メールマガジンで福島空港や就航先などについての情報が届く、という会員特典がある。

「福島県観光物産館ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031c/new-bussankan.html>
「福島県観光物産館ファンクラブ」は、福島県観光物産館を運営する(公財)福島県観光物産交流協会によるファンクラブである。入会費、年会費無料。入会特典として、県産ジュース「桃の恵み」1本プレゼントされる他、①ファンクラブポイントカードによる割引(福島県観光物産館での買い物の際、1,000円毎に1ポイント押印、20ポイントで500円割引、発行日より1年間有効)、②イベントなど福島県観光物産館情報メール発信、③会員向けに開催する「ファンクラブ交流会」に参加でき、といった会員特典がある。

「福島空港ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031b/fisfanclub-top.html>
「福島空港ファンクラブ」は、福島県が運営する。「福島空港を応援したい！」という人のためのファンクラブである。住んでいる地域に関わらず誰でも入会できる。入会金、年会費無料。①福島県内外の協賛店で特典サービスが受けられる、②メールマガジンで福島空港や就航先などについての情報が届く、という会員特典がある。

「福島県観光物産館ファンクラブ」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32031c/new-bussankan.html>
「福島県観光物産館ファンクラブ」は、福島県観光物産館を運営する(公財)福島県観光物産交流協会によるファンクラブである。入会費、年会費無料。入会特典として、県産ジュース「桃の恵み」1本プレゼントされる他、①ファンクラブポイントカードによる割引(福島県観光物産館での買い物の際、1,000円毎に1ポイント押印、20ポイントで500円割引、発行日より1年間有効)、②イベントなど福島県観光物産館情報メール発信、③会員向けに開催する「ファンクラブ交流会」に参加でき、といった会員特典がある。

東北から「頂を目指す！」 少女たちの事

昨年、岩手県出身のタレント・三又又三が宮城に持つテレビ番組に、一人の面白い女の子が出演しているのを観た。まだ小学6年生だというのが、やけに小生意気で頭の回転が速く、ロケ撮影中にカメラへ指示を出すなどして、大人のタレントたちを驚かせたり笑わせたりして翻弄する。宮城出身というので、一見随分東北らしくない子が出てきたな、と驚いたのだが、

実のところ昔からの東北らしさなどというものは、良くも悪くも新世代にとつては過去の先入観になりつつあるのかも知れない。

彼女の名は伊達花彩、仙台を活動拠点とするアイドルグループその名も『いぎなり東北産』。最新少メンパ



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

ルグループその名も『いぎなり東北産』。最新少メンパ

東北関連として間違いない題材と確信しながら、いざさか憚りも覚えるが、彼女らと同世代の我が姪を応援するような気持ちで、本誌面に堂々紹介してみたい。

東北でアイドル、といえ

ば多くの人の脳裏に二〇一三年のNHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』の記憶が甦るのではないだろうか。当時多くの人の心に震災の傷が未だ大きな陰を落とす中、宮城出身の脚本家

による斬新なストーリーテリングが話題をさらい、笑いと元気を被災地に届けたとして今も名高い作品である。地方発のタレントやアイドル自体はそれ以前から存在していたが、東北+

狂した子供たちの世代がアニメブームなども経ながら成人し、現在のアイドルファンを構成する八割がこの三〇代〜四十代の、とりわけ男性群、即ちオタクという一種の偏見対象に支えら

れるサブカルチャーの最先鋒となる。更に、嘗ては東京での活動が当たり前だったアイドルが、より身近な概念となつて続々と地方に誕生する。『あまちゃん』

はこうして各地に生まれた「ご当地アイドル」の代表を東京に集め、一グループに構成して活動させる、という展開を見せたが、現実

世界の『いぎなり東北産』はこれとは全く違う方式だ。東京の大手事務所であるスターダスト・プロモーションが、ももいろクローバーZを始め名古屋・大阪・福岡など各地に地方アイドルグループを結成させると

いう独自の運営展開の中の、その東北版なのである。現在八人の高校生と中学生で構成される『いぎなり東北産』だが、昨年までは中学生と小学生だったという、非常に平均年齢の低い女性グループである。これは彼女たちがスターダスト・プロの「レッスン生」という立場であり、当初より成長過程からの活躍を見込

んだ実験的アイドルともいうべきもので、故に未だ「デビュー前」の段階なのだという。「いぎなり」とは「とても、すごく」を意味する宮城方言。福島ルートを含む宮城出身五人に秋田・岩手・山形出身一人ずつで構成される。決してオシャレではない、寧ろもろ田舎くささ・ダサさを前面に出したグループ名ながら、「いぎなり」という響きが迫力と底力を感じさせて良い。

東京資本だからといって地方搾取と勘ぐるのは早計かも知れない。彼女ら地方のアイドルは始めから東京遠征と各地のアイドルとの交流を視野に組み込まれ、常に外の世界を意識し切磋琢磨し合う環境に置かれて

いる。特に元来、外との競争を恐れ内弁慶・井の中の蛙になりがちだった仙台気質にとつては寧ろ「本場に強い東北」になる為の良いシステムではないだろうか。

実は現在、空前の「アイドル戦国時代」らしいこの事で、実際東北だけ見ても思いのほか多くのアイドルやそのグループが存在し活動している事がネット上でもわかるのだが、戦国というからには各地方のアイドルが無敵中央の全国レベルとも対等に渡り合うという事で、つまりはそれだけ全国の交流が盛んな時代となった、という事なのだろう。前述のようにサブカルと

して偏見対象ではありな

らも、決して今や中央・東京のものだけが優れているのではないのだ、という事を多くの「オタク」なる大人が情熱を以つて体現する。云わば「地方の時代」を先取りしてきた世界である、と言つてもあながち過言ではないかも知れない。

数年前までは、地方芸能界とか、それこそ地方アイドルといえは大阪や福岡のレベルやパワーに圧倒されて、とても東北では同じような事は無理だろう、と多くの人は冷やかな目で見過ごしてきたかも知れない。

ところが、このところ風向きが変わつてきた。昨年夏、東京での全国的なアイドル関連のイベントに『いぎなり東北産』のリーダー・橘花怜と伊達花彩が出演し、並居るプロのアイドル集団の中に消え入るどころか、

司会を務めた指原莉乃がその強い個性に衝撃を受け、「また会いたい」と特別にコメントを寄せたという。しつこいようだが、これまで東北といえは何かにつけて全国の中でも地味なイメージであった。それがいつの頃からか、もしかすると、二〇一三年の楽天球団優勝など、今までの東北ではあり得なかつた出来事が、この地の人々を無意識のうちに変革しつつあるのだからか。即ち、東北からでも「天下」を狙えるのだ、と。

『いぎなり東北産』初の

オリジナル曲「天下一品」みちのく革命」(二〇一六)は彼女たちの改めでの自己紹介も込めた一曲であるが、この歌詞の出だしが凄いい。ちなみに、作詞・作曲がこれまた全員東北出身の男性グループ「パンダライオン」によるものである。

「この地が受け継ぐ、それはそれは昔の伝説の時を越えていま幕を開けるぞ！」

「時は満ちたんだ、うちら暴れまくる時間だ♪みちのくに生まれ頂を目指す！」

かの山形県酒田市出身の白崎映美による『まづろわぬ民』(東北六県ろろるのシヨール!)を思わせる土俗的な雰囲気と満ちた歌詞だが、曲調は鋭いロック調である。一見笑いを狙っているのかと思うような現実離れした世界観。しかし東北人ならばこの意味がわかるはずだ。「この地が受け継ぐ伝説」「時は満ちた」・

「古代蝦夷の物語はそのま

舞に感じる事ができる、と言つたら大袈裟だろうか。この曲によつて身体に叩き込まれた東北的反骨の意識が関東、関西そして九州のアイドルさえも持ち得ない個性の源となり、東北の他のアイドルとも一線を画した勢いを作り出しているのは、確かな気がするのだ。

ともあれ、『いぎなり東北産』はまだ若すぎる未知数なグループだ。二〇一五年結成以来の地道で手探りな活動の中、強めてきた絆はそれぞれの個性を生かし合う八人の仲の良さに確認

する事ができるし、イベントを自ら楽しむ姿からは驚くべき成長の早さも感じられ、まだデビュー前という事実をしばしば忘れさせる。しかし、一方では東北のアイドルは「崖っぷち」なのだという意見もある。元

来ミスター、アイドル好きの土壌で過去に松田聖子、浜崎あゆみなど多くの逸材を輩出し、まさに芸能界を裏で牽引してきた感のある福岡とは違い、保守的気風の強い云わば「オタク人口少なめ」な土壌である仙台において、「もし『いぎなり東北産』が失敗すれば後がない」という危機感が関係者の間であるのだから。

確かに、仙台始め東北の各町村は店一軒、人物一人の存在が重く、一つ欠ける事が地域の大きな損失となる、儂い環境でもある。「もはや自分たちしかないな

い」という責任感、待ったなしのギリギリ感こそが、少女たちの戦意やモチベーションの源になっているとすれば、その小さな背には重過ぎる荷と切なくもなるが、もう一つ彼女らを強く支えるであろう精神的な要素を、忘れてはなるまい。

生意気な暴れん坊のキャラクターながら、お姉さんメンバーらに可愛がられて

いる伊達花彩。実は六歳で震災に遭い、海岸近くの家が被災して数日間クルマの中で過ごした記憶を持っている。リーダー橘花怜のアイドルになろうと思つたきっかけも、震災だったのだという。おそらく、残る六人も皆それぞれの想いを胸に、集結したに違いない。

東北なかんなく宮城と福島、岩手の人々の多くが、震災によつて人生観を一変させ、一方で別の多くが一

見全て忘れたように元の生活を続けていく。しかし震災から始まった新世代たちの人生は、成長した後の活躍によつて私たち古い世代を揺るがし、その遺してきた歴史に問いかけるだろう。それが既に始まっている事は、もはや書くまでもない。

少女があつという間に大人になり、アイドルの生命は瞬間的かも知れない。だが彼女たちは自ら変革した新しい東北で、きっとそれぞれの人生に、新たな頂を見出すに違いない。誰もが認める永遠の東北のアイドルの姿が、そこにあるはずだ。

嘗て夢物語だった『あまちゃん』が、『いぎなり東北産』の刻む歴史の前ではほんの胎動にすぎなかつた事を、私たちは知るだろう。

五月、仙台市のイベントにてサンドウィッチマンと(右中央が橘花怜 左下が伊達花彩)

五月、仙台市のイベントにてサンドウィッチマンと(右中央が橘花怜 左下が伊達花彩)

五月、仙台市のイベントにてサンドウィッチマンと(右中央が橘花怜 左下が伊達花彩)

シリーズ 遠野の自然
「遠野の立夏」
遠野 1000 景より



夕月とお六



ヤエザクラ



ゼンマイ



キジ

もう立夏である。とはい
え、少し前には、そのまま
夏に突入かと思われた暑さ
も、急転直下、寒さがぶり
返し、この2、3日はふた
たび暑さが戻るといふ激し
い変化だった。還暦過ぎの
身にこうした天候変化は堪

える。
身体がうまく順応できる
ように、少しずつ季節が移
り替わるといふことが何か
すぐ特別なことであるよ
うに感じる昨今である。
*
遠野のこの季節は満開の



ヒトリシズカ



道路っばたに馬が

桜がきれいだ。周囲の風景
と桜がマッチした光景は得
も言われぬ味わいとなる。
そこに馬やらSLが絡むと
なおさらである。野生のキ
ジも威風堂々。
夕月と六角牛山のコラポ
は一幅の絵画を見るようだ。

ゼンマイの頭をもたげた姿
はまさにゼンマイバネ。
ヒトリシズカの名前は以
前から知っているが、こん
な形だったかと初めて知る
ヤマブキの黄色が鮮やか
で、初夏がすぐそこである。



S L 銀河往路午前中



ヤマブキ

東北先史時代学の実践プロジェクト③

長根貝塚保存活動は200年プロジェクト

と考えている。
若い女性は総じて感性が鋭く、縄文文化に答えが潜んでいると直観的に感じているのではないだろうか。

ように、すでに畑となつて耕作されている部分では、二千年以上前のたぐさんの貝殻が剥き出し状態になつており、畑の表面を二二三センチメートル掘るだけでたぐさんの縄文土器の破片も露出してくるのである。

その数は十か所にも上り、いわば巨大貝塚群と呼べるのではない。
それなのに、貝塚の遺物がほぼ露出状態で放置されたままであり、「試掘」しか行われていないというところは、この町だけの問題ではなく、縄文時代の貴重な歴史資産への軽視と言われ

この町だけでなく、宮城県や東北全体、考古学会でも大騒ぎであろう。
そうした可能性を秘めている場所がほぼ放置状態にあるというのを再度関係者に考え直して欲しい。

筆者の思惑や常識など吹っ飛ばしてしまうような、壮大な時間軸である。発掘作業の気宇壮大さがようやく理解できた気分である。

合も例外ではない。
なぜなら、遺跡が出現すると、それまで取り掛かっていた工事は中断し、遺跡発掘の届け出をし、しかも発掘の届け出をし、しかも遺跡発掘費用も、一部の例外を除き、自分持ちで発掘しなければならぬのだ。

明らかにすることは避けて通れない。つまり、この貝塚発掘の目的が問われるということになる。
それなしでは、遺跡発見は単なる迷惑な行為としか思われぬのも事実なのだ。

かつて、縄文時代には、ここは水産業を中心とした中規模集落を形成しており、かつて、縄文時代には、ここは水産業を中心とした中規模集落を形成しており、かつてきびれた集落ではなかった。
むしろ南東北の縄文文化のひとつの拠点であった可能性さえあるのである。

しかし、残念ながら、縄文ブームはいまのところ有名な遺跡にしか来ていない。宮城県の片田舎の、そしてほとんどが未発掘で、有名でもなく、専門家でもないかぎり誰にも知られていないような長根遺跡にはだれも寄りつかない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

禁じ得ない。
禁じ得ない。
禁じ得ない。

最近の縄文女子ブーム

最近、若い女性を中心に縄文ブームが起きているという。

筆者も最近、縄文に関するさまざまなイベントに参加する機会があるが、これまであまり見かけられることが目立つと感じる。

こうしたことはとても良いことだと思う。縄文への関心のすそ野拡大は、閉塞気味の日本の見直し、日本の文化全体の見直しにもつながっていく可能性があると思うからである。

また筆者は、3・11以降既存の文化や価値観に疑いを抱く人々が増えており、それはいまも継続している

そうすれば、縄文女子が全国からここに集結する可能性がある。そして、新たな観点から、地方の典型的な、過疎化の進行する町の新たな未来図を描いてくれるかもしれない。

添付した地図を参照していただきたい。
これまでは長根貝塚といってきたが、それは正確ではない。

これは縄文時代にはこの一帯は小さな湾となっていた。そして陸地から細い根っこのように当時の海に突き出た小さな半島の一部にあるのが「長根貝塚」なのだ。

しかも、この貝塚は一年を通しての定住地というよりも、季節によって、一年の一部期間だけの住居であったと推測されている。

そこには居住しなかったときは、対岸に数多く存在する貝塚周辺に住んでいたことがすでに分かっている。

そうしたこと、正確には、ここは小さな湾を馬蹄形に囲んだ、長根貝塚群と名付けるべきものである。小さな貝塚まで含めると、

この町だけでなく、宮城県や東北全体、考古学会でも大騒ぎであろう。
そうした可能性を秘めている場所がほぼ放置状態にあるというのを再度関係者に考え直して欲しい。

筆者の思惑や常識など吹っ飛ばしてしまうような、壮大な時間軸である。発掘作業の気宇壮大さがようやく理解できた気分である。

ほんとうに未発掘状態

ほんとうに未発掘状態

ほんとうに未発掘状態

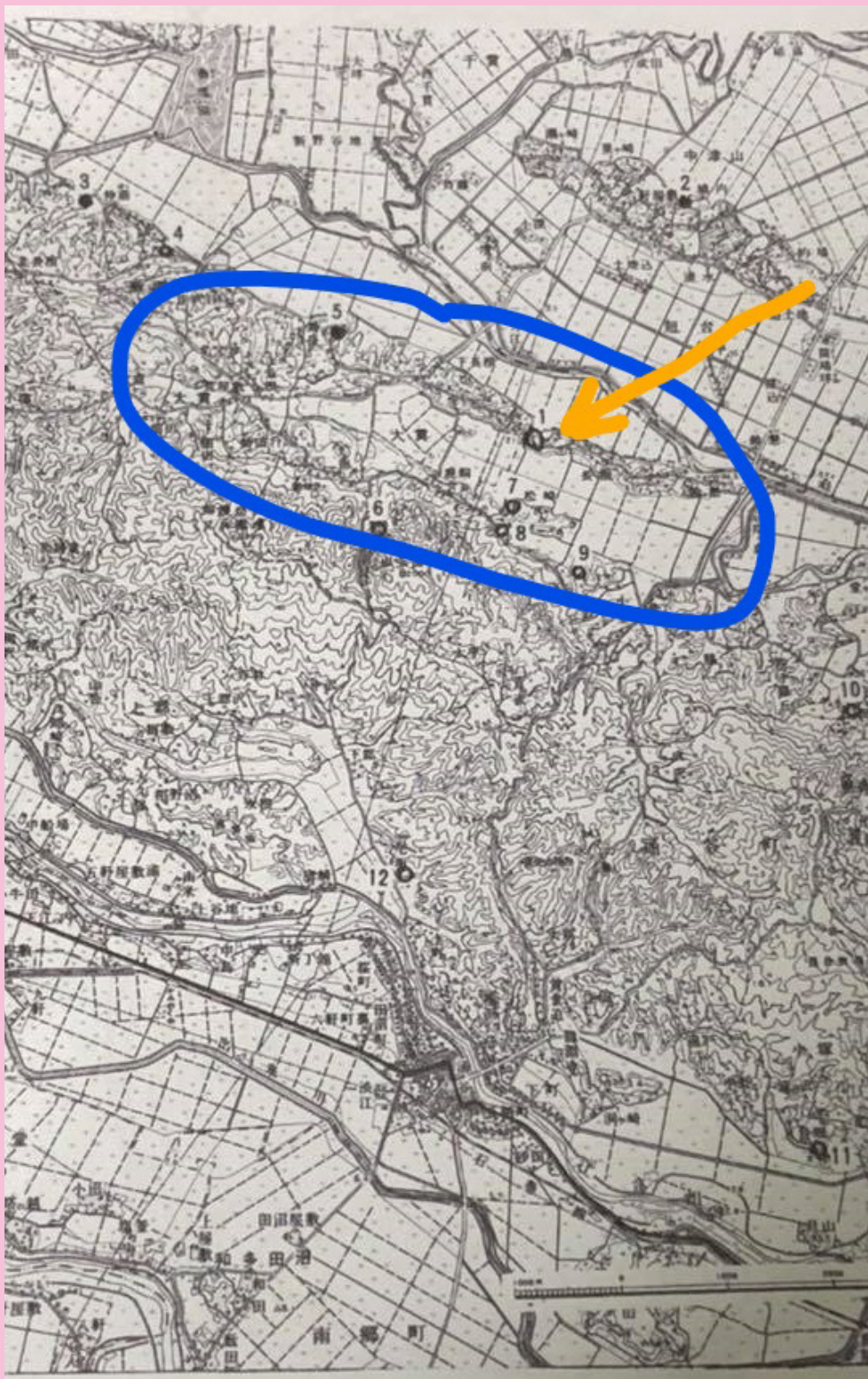
ほんとうに未発掘状態

ほんとうに未発掘状態

ほんとうに未発掘状態

ほんとうに未発掘状態

ほんとうに未発掘状態



史跡位置図 1. 長根貝塚 2. 明神山遺跡 3. 恵比須田遺跡 4. 野野 5. 大森遺跡 6. 山王沢貝塚 7. 松崎貝塚 8. ツナ 9. 道祖神園貝塚 10. 大天馬貝塚 11. 小塚貝塚 12. 境沢

長根貝塚群地図・・・縄文時代には長根貝塚一帯は小さな湾であった。この湾を取り囲んで貝塚群（青で囲んだエリア）を形成していた。 オレンジの矢印で示したのが長根貝塚